

## 柔道ルネッサンススピーチ原稿

平成18年6月18日（日）  
第22回都道府県対抗全日本女子柔道大会

原 共加（旧姓 榎本 共加）



みなさん、こんにちは、ただいまご紹介いただきました原 共加と申します。

私は、この都道府県対抗全日本女子柔道大会の第1回と第2回大会に、岡山県代表選手として出場させていただきましたが、早いもので、今回で第22回を数えることとなりました。

岡山でこの大会が開催されて以来、22年もの長きにわたって続けられてきたことは、この大会に携わってこられた、皆様方の努力の賜物であると、心からお礼を申し上げたいと思います。

さて、私は現在中学校の体育教師をしていますが、柔道を通して、数多くの大会に出場させていただいたことや苦しい稽古をしてきたことが、私の教師としての土台となっています。

最近の中学生は、自己中心的でキレやすく、人を思いやる心に欠けている生徒が多いと言われています。また一方では、小学生などの弱者が犠牲者になる事件が多く起こっています。

このような日本の現状を考えると、今こそ柔道の創始者である、嘉納治五郎師範が柔道を人間教育と位置づけ、指導してこられたことを、もう一度、今の教育に取り戻し、誠意、真心、尽くす、恩返し、親孝行といった日本の良き心を持った、強い子供たちを、柔道を通じて育てていかなければならないと思っています。

皆さんも、数多くあるスポーツの中から、日本的スポーツの柔道と出会い、今まで修練してこられたと思います。柔道を通じて学び得た、日本の良き心を、多くの人々に伝える役目をさせていただきたいと思います。

そうすることによって、日本が、いや世界が、ますます、良くなっていくと思います。

柔道の試合には、勝ち負けがありますが、自分の人生には負けはありません。

私も「必勝不敗の理」をこれからも自分の人生の中で追求していきたいと思っています。

本日は、試合前の大切な時間をありがとうございました。